
ラスキンの冒険

ポポンチヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラスキンの冒険

【コード】

N0030H

【作者名】

ポポンチヨ

【あらすじ】

たあやはわならわたはわまたはたあやはわならわたはわまたは

魔の少年

「ブロンドの長髪」オラムの美しい顔は、血に濡れていた。右膝から下、左の肘から下が切り落とされ、腹と胸に矢が刺さっていた。

兵士が、とどめを刺そうと槍を振り上げた。しかしそれが振り下ろされる事は無かった。兵士の首のあたりで剣がパツと煌めき、頭が地面に落ちたからだ。

首の無い死体の後ろから現れた男を見て、オラムはわずかに笑みを浮かべた。

「オロジム……」

最後の方で、声が霞んだ。オロジムはなすすべなく跪き、巨体を揺らした。

思慮深い目を涙で潤ませ、オロジムは首を横に振った。

「駄目だ」

オラムはなんとか笑みを保っていたが、その目と声音は哀願していた。

「オロジム……友よ、逝かせておくれ……」

次の瞬間、オラムの瞳の輝きが消えた。その目はもはやどこも見

ていなかった。

オロジムは親友の前にひれ伏し、低くうめいた。

その周りでは、最後の首を討ち取るうと、千人もの兵士達がひしめき合っていた。

オロジムは天を仰ぎ、怒りの咆哮をあげた。

「貴方は殺すべき者を見誤りました」

見物しているであろう神にそう呟くと、剣を掲げて、荒波の如く押し寄せてくる敵陣に突っこんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0030h/>

ラスキンの冒険

2011年1月11日21時04分発行